

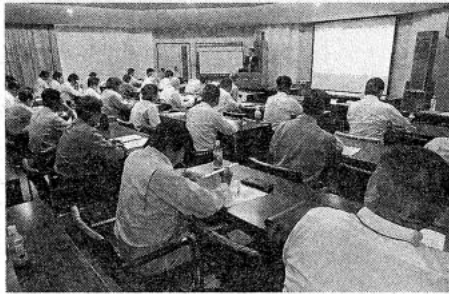
診断能力向上へ経験共有

技術交流会開く

福井県コンクリート診断士会

福井県コンクリート診断士会(石川裕夏会長)は2日、鯖江市の響陽会館で毎年恒例の「技術交流会を開催し

た。会員それぞれが取り組んでいるコンクリート診断事例の発表が行われ、互いの技術向上、発展を追求する場とした。



会員約70人が参加した技術交流会

交流会は今回で10回目を数え、会員約70人が参加。石川会長は冒頭のあいさつで、「交流会の目的は二つあり、一つは会員間、技術者同士のネット

ワークを育むこと。他の会員がどんな業務を経験しているかを知り、助言や相談、情報交換ができる素地を生み出したい。もう一つは会員の経験を皆で共有し、それぞれの診断能力の向上を図ること。他の会員の業務経験を自分の取り組みに重ね合わせ、今後の診断に活かしてほしい」と期待を込めて述べた。

引き続き、▽鋼構造物(水門)の補修工事から補修の要点・工夫

事例・発想の転換等について(福井鐵工 工藤保氏)▽塩害の影響を受けた道路構造物の補修設計事例(帝國コンサルタント 柴原幸氏)▽橋梁補修(補強)の一事例(サンケン 試錐コンサルタント 鈴木俊裕氏)▽老朽化した下水道管路の補修補強工法(菅更生工法)について(山清建設 高橋喜秋氏)▽無収縮モルタルの使用にはご注意を!(茶谷産業 中村博之氏)▽高強度繊維補強コンクリートパネル工法の概要と施工事例(ホクコン 長谷川雅尚氏)の順に診断事例が発表され、発表者は自分たち

の取り組みの工夫点や今後の課題などを熱心に説明した。

このうち、柴原氏は供用後9年しか経過していないのに塩害劣化した海岸線のロックシールドの診断、補修設計について紹介。海岸線の構造物はPC部材であっても、変状が顕在化する前に予防対策を行うことが重要であると、さらには適正な施工を確保するための技術者の育成も課題と指摘した。

事例発表後、質疑の時間が設けられ、聴講者からは多くの質問や意見が出され、互いの技術に高い関心があることがうかがえた。